

#書評



「知っている」から
「わかる」へ変わる

評者 國友耕太郎

国立病院機構熊本医療センター総合診療科
副部長



《ジェネラリスト BOOKS》
知識がつながる抗菌薬

まるわかり感染症診療

岡本 耕＝監修

伊東 完＝著

A5・頁 304 2026 年 03 月

定価: 4,400 円(本体 4,000 円+税 10%)

[ISBN978-4-260-06548-1]医学書院刊

抗菌薬の本を何冊か読んで、わかった気がしない——そう感じたことがあるなら、この本はあなたのために書かれている。

セフェム系、ペニシリン系、カルバペネム系——名前は知っている。使い方も、何となく知っている。でも、「なぜその抗菌薬を選ぶのか」と問われたとき、明確に答えられない。それは勉強が足りないのではなく、「知っている」と「理解している」の間に、思っている以上に深い溝があるからだ。本書はその溝を、丁寧に、一段ずつ埋めていく。

前半は抗菌薬の総論を扱っている。「まずβラクタム系だけを勉強する」「細菌はグラム陽性球菌・グラム陰性桿菌・嫌気性菌の3つのグループだけ覚える」——この骨格を軸に、歴史とエピソードを織り交ぜながら、知識が「流れ」として入ってくる。さまざまな本を読んでも理解できなかった人にとって、どの順序で何をどう学べばよいのか——その問いに、この本は正面から答えている。初学者にとって、これほど頼りになる道標は、なかなかない。

後半は感染臓器別・宿主因子別に整理されている。実臨床で、ベテランでもつまづくポイントや、何となく処方してきた中堅医師が「あ、そういうことだったのか」と腑に落ちるような解説が、豊富に盛り込まれている。

著者の伊東完先生はYouTubeチャンネル「バイキン屋。」を運営し、動画でも教育発信を続ける、熱量の並外れた教育者である。だからこそ、本書は、つまづくポイントを一つずつ丁寧に説明しながら、読者を導いていく。読み終えたとき、点だった知識が線になっている——それがこの本の最大の価値だ。「知っている」で止まるのか、「わかる」まで進むのか。あなたはどちらを選ぶか。

G